【研究テーマ】松江市の社叢林の樹木組成とその成因

【 氏 名 】 久保満佐子・長尾知輝

【 所 属 】 島根大学生物資源科学部, 島根大学自然科学研究科

【連絡先メール】kubom@life.shimane-u.ac.jp

## はじめに

日本の原信仰が森や樹木を主体とする信仰であったことは広く認識されており、神社を囲む森は 社叢林とよばれる、神をまつる森である。長きにわたり信仰の対象として守られてきた社叢林は、 現代では都市緑地としての環境保全や防災、景観形成などの機能、多様な動植物の生育生息場所と しての機能も持っている。江戸期以前の村には、必ず社叢林が一つあったとされ、祭祀と信仰を通 じて人々の生活と密接に関わっていた。しかし、明治に入ると神社合祀令の強行や、人々の意識の 変化から、社叢林は減少した。現代の社叢林は、このような逆風を耐え、その景観や機能を今日に 伝えており、生物多様性の上で重要な森林としても認識されている。しかし、社叢林は令和の時代 においてもまた、その存続が困難な場合や、竹林の侵入などにより原生的植生が失われる場合もあ る。島根県には多くの神社があり、松江市では神社庁に記録されているもので 173 社がある。松江 市の社叢林はスダジイを主体としたものが 1980 年代に報告されているが、40 年以上が経過した現 在の状況は明らかではない。そこで本研究では、松江市の神社を対象として、社叢林の有無と樹木 組成を調べ、社叢林の状態を明らかにする。

## 研究方法

調査地は島根県神社庁 (1981) に掲載されている松江市内に鎮座する神社 173 社である (図 1)。 173 社の社叢林の有無と植生の種類を把握するため、航空写真と現地調査から各神社の植生の「あり」と「なし」を区分し、社叢林「あり」は広葉樹林、竹類を含む広葉樹林、竹林、針葉樹林に区分した。社叢林「あり」の神社では調査区を設置して植生調査を行った。各調査区の低木層から高木層までの各層の群落高 (cm) と植被率 (%)、各層に出現する植物の種類と被度を調べ、被度はBraun-Blanquet (1964) による被度階級 (+:1%以下、1:1~10%、2:10~25%、3:25~50%、4:50~75%、5:75~100%)を用いた。また、調査区内にある樹木の胸高周囲長が最大のものの値を記録した。

## 結果と考察

松江市の神社 173 社を対象として、社叢林の有無を調べた結果、137 社に社叢林があり、73 社が広葉樹を 主体とした森林、45 社が竹と広葉樹 の混交林、8 社が竹林、11 社が人工 林であった。社叢林が残っている場 所は山地近傍が最も多く、市街地で は少なかった(図 2)。海からの距離 は内陸に行くほど広葉樹林の割合が 小さくなり、広葉樹+竹林の割合が大 きくなった(図 3)。松江市は、日本

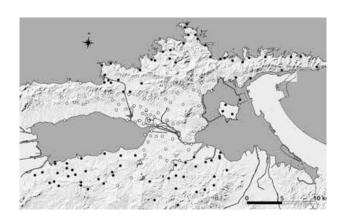


図1 調査地位置図 白丸は旧松江市,黒丸は旧八束郡を表す。

海からおおよそ 5–15 kmの範囲に市街地があるため、竹の侵入と人為の関連を示唆するものと考えられる。標高は50m以下に140社(81%)があり、社叢林を持たない神社のほとんどが標高50m以下であった(図4)。最高標高は455.9mであった。

旧松江市には調査対象の神社は85 社あり、広葉樹林と竹を含む広葉樹林の合計48 社 (55 調査区)の種組成を調べた結果、スダジイ林が最も多く、その他にモミ林、タブノキ林、ヤブニッケイ林があった。二元指標種分析を行った結果、種組成は4つに区分され、タケを含むモミとスダジイの植生、ウラジロガシやモチノキなどの常緑樹種を含むスダジイおよびタブノキの植生に分類された。スダジイ林は暖温帯域にある松江市の代表的な植生であり、胸高周囲長が300cmを超えるスダジイが21箇所確認された。さらに、古くから信仰されている荒神を含む森が残されていた。スサノオとヤマタノオロチの神話は島根にある最も魅力的な神話ともいえるが、さらに古い信仰として蛇の信仰があり、荒神は蛇を模した藁蛇を樹木に巻き付ける。島根半島の社叢林は原生の自然という生態学的な視点だけではなく、信仰と共にある森を見ることのできる貴重なものである。今後、さらに日八束の海岸沿いおよび山間部の調査を行い、松江市全域の社叢林の特性を明らかにしていく。

【引用文献】Braun-Blanquet, J. (1964) Pflanzensoziologie, 3 Aufl. Springer-Verlag. 島根県神社庁 (1981) 神国島根,福間秀文堂.

## 【共同研究者】なし

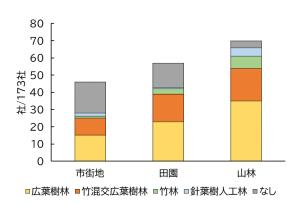


図2 土地利用と社叢林の種類

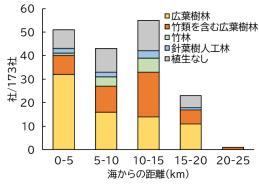


図3 海からの距離と社叢林の種類

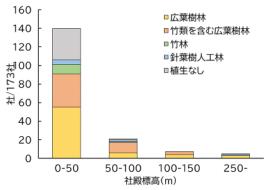


図4 標高と社叢林の種類